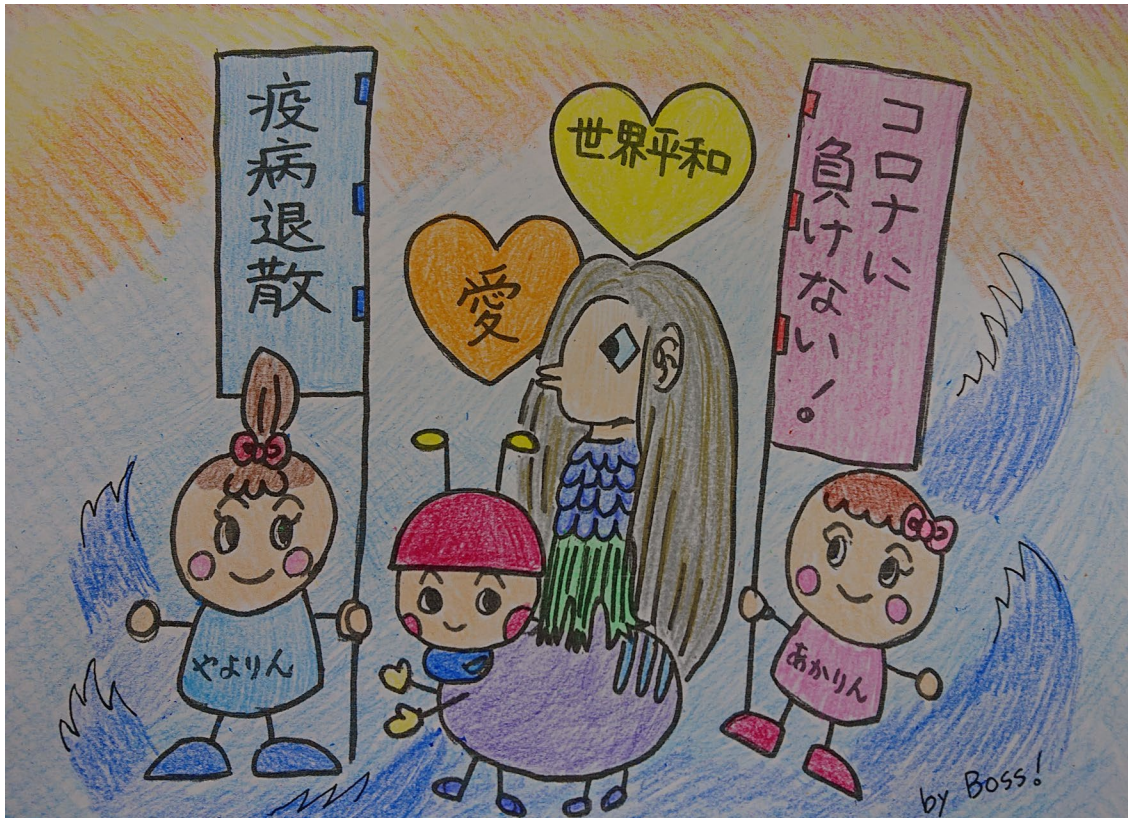




特定非営利活動法人 ありんこ

2021年度 事業報告書

[期間：2021年4月1日～2022年3月31日]

はじめに

NPO法人ありんこは、障害のある子供たちが地域の中でつながって育つための環境、居場所づくりのために、設立されました。設立から10年を経過し、その間に障害者福祉の流れも変化してきています。今後は障害のみに特化せず、福祉、医療、子育てなど、他事業所や、学校、医療施設などとの積極的な連携を通して、地域の課題を解決し、関わる一人一人の未来を見据えた繋がりづくりを支える拠点になりたいと思います。放課後等デイサービスと福祉有償運送に加えて、令和3年4月には学校を卒業した障害者の居場所となる生活介護事業所が開所されました。

これから、既存の事業の継続と発展、規模の拡充や、新規事業の創設などに力を入れ、コロナ後、誰もが「居場所」と「出番」のある優しくあたたかい社会の実現を目指します。

NPO法人の良さを最大限に生かし、積極的に情報発信、情報公開し、障害者福祉の啓蒙活動を通して、全国の皆様からのご理解とご支援をいただけるよう、今後とも精一杯努力して参ります。どうぞ引き続きのご支援をよろしくお願い申し上げます。

NPO 法人ありんこ

理事長 一戸 由佳



事業トピックス

1.放課後等デイサービス事業

10年目を迎えた放課後等デイサービス事業。個別の支援や集団活動（音楽活動や食育活動）社会的な活動（リサイクル活動）な等の充実が図られ、個々への着実な定着が感じられました。また、日々の送迎時や、定期的な面談などを通して保護者の方と思いを共有することができました。コロナ禍で関係機関との連携は取りにくいこともありましたが、出来る限り情報交換をするようにしました。また、これまででいちばん多い7名の卒業生を輩出。設立当初からの利用者様が多く巣立ち、感慨深い年度末となりました。

新型コロナウイルス感染症の流行から2年以上経過し、去年は事業所を安全に運営するための人材が一時的に著しく不足し、約1か月の事業所閉鎖を余儀なくされました。閉鎖の間にBCPの概略を組み立て、二度と閉鎖することなく事業を継続できるように準備をしました。外出の自粛や三つの密を避けるため、制約が多くなりましたが、その中で出来る限り子どもたちの力を伸ばす支援ができていたと思います。



2.赤い羽根共同募金活動

今年度も昨年同様赤い羽根の街頭募金自体がコロナ禍で中止となり、街頭募金活動はできませんでした。早くコロナが終息し、支援されることが多い子供たちにも誰かのために働く喜びを感じてほしいと願っています。今年度は共同募金会からの配分金を利用して、リサイクル用の空き缶、ペットボトル潰し機を購入することができました。愛称「かばちゃん」というこのマシーンは処理能力が高く、利用者様のリサイクル活動に活躍しています。支援をいただくことも多いので、今後もできる範囲でこの募金活動を継続し、利用者やその保護者にも理解を深めてもらえる努力をしていきます。引き続き活動へのご理解、ご協力をよろしくお願いします。

事業の成果と課題

1.放課後等デイサービス事業

【趣旨・目標】肢体不自由児童生徒及びその他の障害児童生徒の成長発達を支援する。

当該地域における肢体不自由児童生徒及びその他の障害児童生徒に必要な個別支援や、集団の中でたくさんの人と関わることを通して豊かな人間性を養い、のびやかな成長を支援する。そのためなるべく多くの人の手と目をかけ、ゆとりのある計画の中で活動できるように配慮してすすめる。

当該地域との交流、さまざまな事業所や自治体などとの連携を更に深め、ホームページなどでも積極的に情報発信を行い、障害者福祉の啓蒙活動を充実させる。

内容について

実施場所	弘前市大字富栄字笹崎80-1
実施日時	令和3年4月1日から令和4年3月31日
従業者の人数	16名（兼務あり）
受益の対象者	当該地域における肢体不自由児童生徒及びその他の障害児童生徒21名
収入	25,418,335 円
支出	26,206,278 円

【成果と課題】

音楽活動、食育活動、制作活動、芸術、体育的活動など、いろいろな活動を体験することにより、幅広い経験を行うことができたが、コロナ禍で外出活動が出来ず、体験的な活動が少なくなってしまった。

2. 福祉有償運送事業

【趣旨・目標】 障害のある子供たちの通学を支援する。

障害のある子供たちの通学を支援し、元気の良い、学校に通える子供たちが保護者等の都合で欠席する日を減らす取り組みを進める。

【今年度実施した取り組み】

通学時などの送迎が主になったが、月別の予定に沿った支援の他、保護者や兄弟の急な体調不良による突発的な送迎も可能な限り受け入れることができた。

内容について

実施場所	当該地域（弘前市内を発地または着地とする）
実施日時	令和3年4月1日～令和4年3月31日
参加人数	445人（延べ）
事業の対象者	障害のある児童生徒
収入	303,880円
支出	0円（兼務職員の報酬を含まない）

【成果と課題】 定期的に利用している利用者は昨年から半減。しかし、児童生徒が高学年になるにつれて、保護者の体調不良など、突発的な利用依頼がこのところ増加傾向にある。今後は突発的な利用に対応する運転手の確保などが事業継続には最重要となる。

3. 病児保育事業

当該地域における障害のある病後児童生徒を学校に登校できるようになるまでサポートする。

主に当該放課後等デイサービスを利用する児童生徒で、病後、学校に登校できるようになるまでの間、日中の居場所とし、保護者が安心して仕事ができるよう支援する。

【今年度実施した取り組み】 コロナ禍の中、自粛後、登校や事業所の通所が出来ない利用者の支援を行った。

内容について

実施場所	病児保育室かぜのこ（弘前市大字富栄字笹崎80-1）
実施日時	令和2年4月1日～令和3年3月31日
参加人数	3人（延べ人数）
事業の対象者	障害のある児童生徒
収入	4500円
支出	0円

【成果と課題】 コロナ禍の中、自粛明け、他の事業所の利用ができない利用者が、保護者の就労継続のため利用した。また、学校が、症状のある児童生徒の登校自粛を求めている、保護者の就労のため利用する場面が多かった。今後もコロナの状況によってはこのような利用があることが想定されるので、医療的ケアの必要な利用者に対しては、放課後等デイサービスと分けて職員配置を行う必要があり、人材の確保も課題である。

4.生活介護事業

【趣旨・目標】 障害者の自立と社会経済活動への参加を促し、豊かに輝いて生きる一人一人を支えます。

当該地域における、特別支援学校等を卒業した障害者の自立や社会経済活動への参加を促し、一人一人がその人らしく社会と関わり、既存の社会資源をうまく活用して自立する方法を共に考え支える。、集団の中でたくさんの人と関わることを通して豊かな人間性を養い、のびやかな成長を支援する。そのためなるべく多くの人の手と目をかけ、ゆとりのある計画の中で活動できるように配慮する。

【今年度実施した取り組み】 生活介護事業初年度として、学校を卒業後の4名を受け入れ、事業を行った。

内容について

実施場所	弘前市大字富栄字笹崎80-1
実施日時	令和3年4月1日から令和4年3月31日
従業者の人数	7名（兼務あり）
受益の対象者	当該地域における障害者4名
収入	6,981,190 円
支出	5,995,200 円

【成果と課題】

成人後の体力づくりや、社会との関わりを構築するための様々な活動を、利用者のニーズに合わせて行った。コロナ禍の中で地域交流は難しいところもあったが、事業所内外で、出来る限り役割をもって、安全に日々を過ごすことができたと思う。今後はいろいろな形で地域と繋がって活動の幅を広げたい。

運営について

■第10回定時総会

日時	令和4年5月29日（日）午前10：00～
場所	児童デイサービスやよいのあかり施設内（弘前市大字富栄字笹崎80－1）
社員総数	14人
出席者数	14人（うち、会場出席者5人、委任状提出者9人）
内容	第一号議案：令和3年度活動報告審議 第二号議案：令和3年度決算報告審議及び監査報告 第三号議案：令和4年度活動計画及び予算審議
審議結果	第一号議案：原案通り承認 第二号議案：原案通り承認 第三号議案：原案通り承認

■理事・監事

理事長	一戸 由佳
副理事長	藤田 公和子
副理事長	高橋 多美子
理事	中路 和子
理事	棟方 良英
監事	長谷川 景一

■会員の状況

正会員： 個人14人

賛助会員：60人

寄付会員：12人

個別寄付者：3人（会員外）